



今年も国際語科はハロウィンで盛り上がりました！

国際語科恒例、巨大カボチャを使った「ジャック・オー・ランタン」づくりをしました！ 一人で持てないほど大きなカボチャを、こわい顔に仕上げました！



完成したカボチャのオバケを前に、記念撮影！

輪郭を書いて、包丁で顔を作っていきます。国際語科フロアで1年生の生徒が中心となって取り組みました。ネイティブの先生や後藤田先生も参加！



「魔女の帽子」をみんなでかぶって、4つのカボチャをくりぬきました。

顔の中のライトを灯すと、雰囲気満点！

2年生総合学習の時間で異文化理解・国際協力について考えるワークショップを行いました！ 本を読んだり講義を聴いたりするだけではなく、実際に動いてみたり友だちと一緒に考えてみたりすることで、想像力が働いて世界のことがより身近に考えられるようになると思います。2年生では2回にわたって「有名な」ワークショップを行い、世界で起きていることについて考えてみました。

「世界がもし100人の村だったら」ワークショップ(10月19日) 世界を100人の村にたとえて生徒が「村人」となって世界を体感してみようというワークショップです。



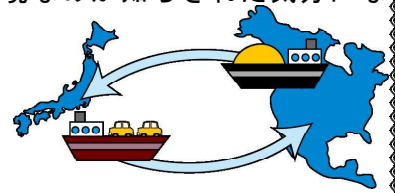
世界の人口は何人だっけ？
まずは簡単なクイズ。

アジアの国々は人口
密度が高い！

「世界の富」をジュースを配分することで
体感してみました。

文字が分からない人は
「毒=塩水」を飲みました！

〈生徒の感想〉 ●普段テレビで見かける貧困問題や戦争のことは数字が大きすぎて想像がつかなかった。今回のワークショップで自分たち一人一人が世界中のいろいろな環境や、立場の違う人になることで実際にはどのくらいの割合なのかというのが理解できた●小さくして考えれば、視野が広げられる。この考えで、たくさんの方に気がつけました●ホセ・ムヒカ大統領（ウルグアイ）もこの本について触れていました。今日、プリントで初めて全文を読んで、日本は本当に恵まれているんだと感じました。活動の中でも所得順でお茶を分けたとき、日本が一番裕福なグループにいて全体の富の50%以上も有していることを初めて知りました。一口に先進国だとか言うけれど、実際に自分たちが活動してみると先進国であることがどれだけ素晴らしい環境なのか知らされた気分になります。そんなに富を持っている日本にいてユニセフなどの募金にあまり協力的ではなかった自分が嫌な人に思えました。活動で使ったカードで私は字が読めない設定でした。世界にはこれが設定ではなくて現実という人がいるんだと思うと悲しかったです。このようなことを考え、学ぶ機会がある私たちはラッキーだと思いました。せっかく国際にいるのだから、これから高校だけでなく大学などでも世界から見た日本、日本以外を感じていける学びをしていきたいです。



「貿易ゲーム」ワークショップ(10月26日) それぞれのグループが「国」になって製品を生産していくゲームです。国によって不平等があることを体験することができました。



製品の設計図どおりに
作成していきます。

「銀行」に製品を持って
行って「お金」に換えます。

時間が経つにつれて、作成にも力が入って
きました！ 製品価格の暴落もありました！

小林昌先生も、厳しく
製品をチェック！

〈生徒の感想〉 ●道具もなにもないグループが一番今の世界の貧困の状況を勉強したのだという先生の言葉に感動しました●必要なものを持っているグループは、何も無いグループに貸してあげたりしなくて、貧しいグループは何も出来なかった。同じ世界でもめちゃくちゃ差があるし、分け合って互いにいい思いをするのが一番だけどそれが難しいと思いました。